医学博士のメディカル・コラム

病気が教えてくれるもの

第47回　愛、そして心意気

映画やブロードウェイでも上演された戯曲「シラノ・ド・ベルジュラック」を御存じだろうか?若かりし頃、ジャン=ポール・ベルモント主演の同舞台を観に行って、「愛と心意気」について学んだ。

容姿に恵まれない騎士シラノが、ある美しい女性ロクサーヌを、生涯をかけて一途に恋慕する物語なのだが、彼女が想いを寄せる文才のない恋敵でもある友人に代わって、見事な恋文や詩歌を、徹底した影の存在として贈り続け、二人の恋愛を支え続ける。そして、友人が戦死し、自らの死の間際に、初めて彼女に恋心を告白するという内容だ。

彼は、“自らの思いを伝える”ということにおいては成功している。だが、その見返りは自分には決して返ってこない。それどころか、自分の恋敵を有利にするばかりだ。「愛する人が幸福を感じている姿」こそが、彼にとっての幸福そのものなのだ。

ここには、“自分の目的”が思い通りに叶わないと、怒りを爆発させたり、絶望に伏したりという愚かさは微塵もない。あるのは駆け引きのない、爽やかな「心意気」だ。主語が「自分」ではなく、「愛する人」であり、目的が「自分のため」ではなく、全ては「愛する人のため」なのである。

「愛」に「見返り」という紐を付けて送り出すとその瞬間に「愛」は死ぬ。自己を主張しすぎず、少しくらい損をしても、見返りが何もなくても、誰かの幸福の為に、「真・善・美」を貫く生き方こそが目指したい「心意気」だ。けれどその時、幸福感という最大の「見返り」が期せずして与えられるように思う。

医学博士　木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

医療法人
きむら内科クリニック　TEL 044(981)6617
麻生区五力田2-14-6　きむら内科クリニック　麻生区　検索